

「人権」としての性の学び、「問題」としての性の学び、「愛」としての性の学び

なぜ今、性教育が必要とされているのか（喫緊に必要な学びとは何か）←主に小学校高学年から中学生？

- 性搾取、性虐待、性犯罪の問題 → 知ることで防止、抑止につながる
 - 多様性、差別の問題 → 知ることで寛容、安心感につながる
 - 性教育の希薄さ、貧弱さ、アンバランスさの問題（主に日本） → 知ることで人生の豊かさにつながる
- ↓
- 人権（幸せに生きる権利）の学び • 性愛（幸せとは何か）の学び

乳幼児期から進める性教育について考える

1、性教育の目的 … 子どもたちが今現在から将来にわたってよりよく生きるため

2、方法論 … 包括的性教育

性教育は人生についての学びでもある、すべてがつながっており広く深く学ぶ必要がある

- 3、具体的な流れや例
- 命について（生まれること、生きること、死ぬこと）
赤ちゃんはどうやってできるのか、どこから生まれるのか
性行為（セックス）の二つの目的について
 - 体について（大切にすべきこと、性器の名称について）
おちんちんと言うのかペニスと言うのか、女性器を何と言ったらいいのか
守るべき箇所はどこか、プライベートゾーンについて
 - 権利について（嫌なことは拒否していい）
 - ジェンダーや多様性について（男女で分けることの必要性和不必要性）
 - 愛について（性愛の本質は損得やコストではない、本当の幸せについて）

4、身体に関する文化の違い 各地域の歴史、社会的背景から考える

- ニュージーランドの幼稚園の例（西欧的価値観）
- 日本の幼稚園の例（東アジア的価値観）
- ヤノマミの例（少数部落的価値観）
- 「裸」に関する文化の違い 裸の部族は文化レベルが低いのか？

5、疑問・質問、留意事項

- 「寝た子を起こす」論は正しいのか？
- 性の話は恥ずかしいものでも卑猥なものでもない（下ネタ話とは違う）
- 大切なのは話す時、真摯に丁寧に伝えること（先入観が少ない幼児期からがやりやすい）
- 性行為は悪いことではない（身体が気持ちよくなることはいいことであるという理解）
- 学校では十分には教えてくれない
- 日本ではセックス経験のない若者（25歳～35歳）が増えている それはなぜか？